



●竿でウネリをかわしながら巻き上げよう



●プランク仕掛けなら落ち着いてゆっくりに取り込めば大丈夫



●プランク仕掛けなら落ち着いてゆっくりに取り込めば大丈夫



●周年イカ一筋の人も多い



●一本のツノに二本乗った



●合図と同時の素早い投入は鉄則



●シーズン本番はこれがいい



槍 鳥 賊

◀今日の釣り場は真鶴沖の水深130～220メートル

●沖イカは早川港を代表する周年の人気ターゲット。これからの時期はヤリイカが主役だ

相模湾小田原早川港出船 撮影●粕川 晃

相模湾のヤリイカ上昇気配 11月は釣果の安定に期待



●いい群れに当たると多点掛けで乗ってくる



▶ブラツノ11センチにオモリ120号。赤白のツノを1本交ぜておくと効果的

キハダでにぎわう相模湾小田原早川港だが、周年の定番ターゲットはイカ。今シーズンは9月中旬過ぎから本格的にヤリイカが釣れ始めており、徐々に調子が上向いている。
目下の釣り場は真鶴沖が中心で、水深は130～200メートル前後。数はトップで20杯前後といったところだが、初期ならではの肉厚ヤリイカがそろそろ。今号発売時には初島周りも解禁、釣り場が広がりより安定した釣果が期待できるようになるだろう。
(詳細は62ページ参照)



●相模湾小田原早川港・長谷川丸谷川 元則船長

●初期ならではの中小型主体

東京湾奥金沢漁港出船

撮影●鈴木良和

テクニカル ゲームが楽しい 東京湾の タチウオ盛況

●テンビン仕掛けで1メートル超級。良型が釣れるとやっぱりうれしい



▼テンビン仕掛けはオモリ60〜80号を使い分ける



▼当日は猿島へ走水沖の水深60メートル前後を狙った



●テンヤにきた当日最大121センチ



●アタリの多さを楽しむならテンビン仕掛けがおすすめ



●テンビン仕掛けは60〜80センチ前後が主体



●狙いどおりに掛けられたときはうれしい

東京湾のタチウオが依然として盛況だ。一時は湾奥の浅場にも群れの回遊が見られたが、このところは再び猿島へ走水沖の水深60メートル前後が主戦場となっている模様。釣果はトップ10〜20本前後と幅はあるが、これはアタリを掛けられるかどうかによっても変わってくる。その難しくも面白いところがタチウオ釣りの魅力で、常に安定した人気を誇る理由でもある。

なお、取材した東京湾奥金沢漁港の蒲谷丸ではテンビン主体に出船も、希望すればテンヤの釣りもOKだ。
(詳細は60ページ参照)



●東京湾奥金沢漁港・蒲谷丸
蒲谷 政徳船長